

新産業

三セク運営、責任の所在は

町長が社長の責任を負う



通しが立たない場合、議会への理解も得られないので行えない。更に、事業実績については定款に基づき外部監査を通じて、詳細な情報を逐一議会にも説明するつもりである。

問 第三セクターでの運営方針とその責任の所在を、どう明確に担保していくのか。

答 大西町長

出資は町と金融機関で行い今後組織される取締役会において、町長が社長に就任する予定。正職員2名の雇用と町職員1名を工場長の職責で3年程度派遣する予定。他にパート3、4名程度の体制を考えている。

事業不調による三セクへの赤字補てんは、将来の経営見

問 原料の調達割合は地域内と地域外でどれぐらいの割合を考えているのか。

答 大西町長

現在のところ地域内と地域外での調達割合は考えていない。年明けの企画会議で商品構成等を決定し原料の調達計画を行う予定。現在の生産予測は、注文が来ている商品の製造とそれ以外の商品に分かれ、それ以外の商品の中で備蓄缶詰も製造する予定。

原料の調達については、町内加工業者や近隣の業者で何が対応可能なかの調査を実施中。将来は県内まで調達範囲を広げる可能性あり。

今後の経営の主導権確保のためには、原料の地域内調達を意識し努力していくが、他にもアレルゲンフリー食品

(※)の缶詰にも取り組んでいきたい。

※ アレルゲンフリー食品
主に「卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに」などが含まれていない食品のこと。

問 売上計画は、当初予定通りで行きそうな感じなのか。

答 大西町長

当初、製造予定の缶詰より小ぶりの缶詰の製造も予測され、売り上げは減少する可能性もある。しかし、これも企画会議の後で決定する予定。また、商品については、製造能力以上の大量発注の商談

が既に来ている。但し、大量注文のキャンセル等によるリスクを減らせるように、受注を分散させるなど取り扱いは十分に注意していきたい。更に、経営が厳しくなっている特産協もこの三セクに組み込み、黒潮町の伝統技術を守るような運営も視野に入れ考えていきたい。



昨年9月の試作品と缶詰試食会の様子